

目指す学校像	季節の花と明るい挨拶にあふれ、生徒一人ひとりの夢と生きる力を培う学校 ー大好き TAIHEIー
--------	---

重点目標	1 「よい授業」のシステムとICTを活用した基礎学力の定着化と確かな学力の醸成 2 生徒指導・教育相談体制の充実を図り、生徒が安心・安全に過ごせる学校環境づくり 3 コミュニティ・スクールを通して、学校と地域のパートナーシップをより深めた効果的教育活動の展開 4 使命感をもち、生徒・保護者・地域から信頼される教師の育成
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価		
年 度 目 標			年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	(現状) ○学校評価「自分は意欲的に授業に取り組んでいる」の設問に対する肯定的な回答が90%を超えている。 ○全国学力・学習状況調査における漢字の読み書きや、式の計算などの基本的な設問に対しては前向きに取り組んでいる。 (課題) ○学校評価「自分は基礎学力が身に付いている」の設問に対する肯定的な回答が80%には達していない。 ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語の「書くこと」の領域、数学の「数量や図形などについての知識・理解」において課題がみられる。 ○全国学力・学習状況調査における記述問題について、無解答率が高く、課題がみられる。	・学習意欲の向上と基礎学力の定着化	①学習アプリの活用、宿題や課題の取組を積極的に取り入れ、生徒が目標をもって学習し、基礎・基本の定着を図る。 ②全国学力・学習状況調査の自己採点の結果を情報端末上のシートに入力し、生徒自らが学習状況を把握できるようにする。 ③教師の授業力の改善・向上と生徒の課題を把握し、校内における「よい授業」のアンケートを年2回実施し、教科担当が課題解決のための工夫した授業を実施する。 ④全国及び市の学習状況調査の結果の分析及び市教委による学力向上カウンセリング研修により、言語活動の充実を図る手立てを設定し、学校全体で生徒の無解答率低下を図る。	①学校評価「自分は基礎学力が身に付いている」の設問に対する肯定的な回答が80%以上となったか。 ②生徒が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動するようになったか。 ③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修、「よい授業」のアンケートを実施し、授業改善の視点、手立てを設定することができたか。また、記述問題についての無解答率を低下することができたか。	①学校評価における生徒の肯定的な回答は84.8%であり、過去3年間で一番高い数値となった。 ②自己採点を一人一台所有するタブレットPCに入力することにより、より自己分析を明確に受け留めることができ、新たな目標設定を設定することができた。 ③「よい授業」のアンケートを1、2学期に一回ずつ実施することにより、因子①②③④の比較をしながら、授業改善に繋げることができた。 ④市教委より講師を要請し、学習状況調査の分析を職員全体で研修することができた。無回答の生徒についても減少している。	B	・授業における学習と、家庭学習の両方から、基礎学力が身につくようにする。また、PCの持ち帰りによる学習教材を積極的に活用していく。
		・世界に開かれた窓としてのICTのより効果的な活用を通じた幅広い学習方法の充実	①ICTを効果的に活用し、情報活用能力を高める学習活動や、STEAMs、SDGsを関連付けた探究的な学習活動を位置付け、生徒の表現力の向上を図る。 ②仲間とともに共鳴・協働する場面を意図的に設定し、生徒が主体的・対話的で深い学びに向けた授業を実践する。	①「よい授業」における因子4「児童・生徒の活動」が昨年度より0.5p向上することができたか。 ②全国学力・学習状況調査の結果・分析において、先に挙げた課題が克服の傾向となったか。	①「よい授業」における因子④についての昨年度より0.5%向上することができ、目標値を達成した。 ②「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定的な回答の割合は82%と高い数値であった。	B	・「よい授業」のアンケートは校内において実施し、授業改善に繋げ、授業力の向上を目指していく。
2	(現状) ○学校評価「自分は楽しく学校生活を送っている」「自分は命の大切さを考え、健康や安全に気を付けた生活をしている」の設問に対する肯定的な回答が90%を超えている。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる生徒のけがは0件、救急車での搬送のけがは1件であった。 (課題) ○欠席日数が長期間に及ぶ生徒に対する対応を、校内委員会で話し合い、個に応じた対応ができるようにする。学校外の相談機関や、医療、地域の組織、市の支援課等からも支援、助言を受けながら、各家庭に寄り添いながら、各家庭の保護者との連携を一層図っていくことが課題である。	・生徒指導・教育相談体制の充実	①毎週の生徒指導・教育相談部会における教職員間の情報共有や具体策を提示し、個に応じた指導を充実させるとともに関係機関との連携を密に行う。 ②全職員が積極的な生徒指導のもと、報告、連絡、相談、見届けを実践した教育活動にあたる。 ③授業では、「わかった」「できた」「うれしい」授業を実践する。 ④さわやか相談室への登校生徒や長欠生徒へのかかわりを深め、心のリレーションづくりを行う。	①心と生活のアンケート「信頼自己の項目」が全クラス1回目より2回目が高まったか。 ②学校評価「自分は楽しく学校生活を送っている」「自分は命の大切さを考え、健康や安全に気を付けた生活をしている」の設問に対する肯定的な回答が90%以上となったか。 ③長欠生徒が前年度と比較し、減少の傾向となったか。	①心と生活のアンケートにおいて、「信頼自己の項目」はABの評価が1回目より2回目が高まったのは3年生全クラスで、3～6増加した。2年生では全クラス1～4低下したが、3回目は2回目よりも0～3増加した。1年生は2回目が1クラス同じで、他3クラスは低下したが、3回目は1クラスは0、1クラスは-1、2クラスが2回目よりも1～3高まった。 ②アンケート結果は目標値90%を超え過去3年間で一番高い数値となった。 ③長欠の生徒は大きく減少の傾向にはなっていないが、長欠生徒に係る進路決定や、外部機関へ繋げることはできている。	B	・年3回実施する心と生活のアンケートの分析で一人ひとりを把握し、自己肯定感が高まる取組を実践していく。また、面談については、毎回全員を対象に実施し、寄り添った指導に努める。
		・生徒が安心・安全に過ごせる学校環境の美化・整備	①安全主任を中心に校舎内外施設の安全点検を毎月行い、教育委員会とも連絡を取りながら、迅速に修理する。 ②火事、地震等、様々な状況を想定した年3回の避難訓練の実施、PTAとの校庭の緑化・環境整備を実施する。 ③校舎内外には季節の花々や観葉植物を配置するとともに学校・学年・学級経営方針の具現化を図る掲示物を時期に応じて更新する。	①安全主任をおとして、全校で校舎内外の安全点検を毎月行われ、破損箇所は迅速に修理されていたか。 ②毎学期の避難訓練、年2回のPTAとの緑化・環境整備を実施したか。 ③年間を通して、花や緑、時期に応じた更新された掲示物が校舎内外に配置することができたか。	①毎月の安全点検は計画通りに進めることができた。また、破損箇所は、業務、事務、施設課と密に連絡を取り合い、迅速に対応できた。 ②毎学期の避難訓練は、学校全体で災害等を想定して真剣に取り組むことができ、地震があった際は、机の下にもぐる等、訓練の成果が現れていた。PTAとの緑化活動も計画通りに進めることができた。 ③季節や、行事に向けた掲示物を更新しながら生徒が前向きに取り組めるように掲示物を工夫することができた。廊下に鉢植の花を飾ったり、トイレや廊下等に絵画を飾ったりしながら美しい環境づくりに努めることができた。	B	・毎日の学校生活を安心して過ごせるように今後も環境整備に努めていく。特に、雨漏りによる校内の設備や、機器の故障にならないように、最新の注意と予防策を考えて取り組む。
3	(現状) ○本校学校運営協議会を通し、「心をつなごう 手をつなごう」というキーワードを共有した。本年度はボランティア活動の推進により一層積極的に取り組む。 (課題) ○昨年度に引き続き、目指す生徒像について、学校・家庭・地域全体で共有できるようにする。また、生徒に身に付けさせたい力については、今年度も、実現に向けた方策を定めていくことが課題である。 ○コロナ収束後の新しい「開かれた学校づくり」をいかに実施していくかが課題である。	・本校の学校運営協議会及び教育活動の積極的な情報発信	①「心を潤す4つの言葉」を実践し豊かな関わり合いのあいのある環境をつくる。 ②本校Webページに学校運営協議会の情報を発信するページを作成し、目指す生徒の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ③各学年の保護者会や、行事、授業公開、保護者会等、安全に十分配慮しながら、開かれた学校づくりを構築する。	①職員・生徒会・委員会と一緒に「心を潤す4つの言葉」の実践に取り組めたか。 ②学校評価「学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている」の設問に対する肯定的な回答が90%以上となったか。 ③安全対策を行ってきたか、年間10回以上、学校公開を行ったか。	①「心を潤す4つの言葉」については、常時に教室や廊下に掲示し、啓発に努めた。また、生徒会や学級委員、体育委員からの呼びかけや、職員から生徒に投げ返す言葉も4つの言葉を意識して学校全体で取り組むことができた。 ②学校評価の情報提供に関する項目については目標値より2.8ポイント下回った87.2%であった。 ③4月の保護者会、体育大会や、合唱コンクールをはじめ、部活動保護者会、三者面談、学期ごとの保護者会等、目標を達成し、開かれた学校づくりに努めることができた。	A	・4月より「Sola る一む」の開設に向けて、準備を整えるとともに、学習支援の充実と教室に入って学習できるように支援する。・学校ホームページや学校だより等を通じて保護者へ向けて積極的に情報発信をしていく。また、今年度土曜日に学校に保護者を招き、生徒の様子や学校の取組に理解が深まるようにしていく。
		・継続的な取組に向けた「泰平中コミ・スク成長プラン」の策定と行動	①学習状況調査の結果分析等を用いて、生徒の自律につながるコミュニティ・スクールへと成長を図るためのプランを策定する。 ②策定したプランを基に具体的な方策を定め、その取組の一部を開始する。	①学校評価「学校は、家庭・PTAや地域と連携して学校運営をしている」の設問に対する肯定的な回答が90%以上となったか。 ②市学習状況調査「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に対する肯定的な回答が昨年度より高くなったか。	①学校評価については、肯定的な回答は88.5%となり、目標値を下回った。 ②学校運営協議会と連携しながら進めることができた。地域のボランティアや行事に積極的に参加する生徒が増え、ボランティア活動に登録する生徒は50名を超えている。また、市学習状況調査の設問でも昨年より肯定的な回答が増えてきている。	A	・学校の取組や、PTA活動を学校からの便りやホームページ、地域と連携しながら、積極的に発信していくようにする。ボランティア活動についても地域の催し等に多くの生徒が参加できるように呼び掛けていく。
4	(現状) ○生徒の一人一台のタブレット端末を有効に使い、校内研修での教師の情報法機器を活用した授業の実践や各学年のエバンジェリストが活用に関してリーダーシップを発揮している。 ○教職経験5年未満の教員が約4割を占める。 (課題) ○ICTの活用について、学習アプリの活用について、教科により、また、教員間で取組の差が見られる。ICTを有効に活用した授業づくりが課題である。 ○教科横断的に授業実践等を見合い、学びあい、共有し、教員の授業力の向上が課題である。	・教育DXに向けた「シンGIGAスクール構想」の確実な実践及び「よい授業」づくり	①タブレット端末での授業での活用事例及び授業内における有効な活用手段、学習アプリの有効な活用法を校内研修や教職員コンピュータ内で共有し、授業の質を高める。 ②よい授業のシステムを活用した授業づくりを目標に掲げ、管理職による全職員の授業参観及び指導・助言を行う。 ③研修主任と連携した教員のICT活用能力を向上させる校内研修や管理職による服務規律に関する校内研修を計画的に実施する。	①学校評価「わかりやすい授業をしている」の設問に対する肯定的な回答が90%以上となったか。 ②「よい授業」に関するアンケートの2回の集計結果での4つの因子平均にいて市平均より1p上回っているか。 ③ICTの有効活用するための、研修やアンケート行い、全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。また、学校評価アンケート「先生は悩みや相談事などに対して、親身にに応じてくれる」肯定回答90%以上となったか。	①「わかりやすい授業をしている」の項目において、93.4%の生徒が肯定的な回答をした。ICTの効果的な活用と、授業の工夫の成果だと捉えることができた。 ②今年度の市の統計を出していないため、市平均を把握することはできなかったが、1回目は2回目では全ての項目が伸びている。また、今年度からの「学びの指標(試行版)の調査の平均では、特にICTの活用に関しては、平均より0.2ポイント高くなっていた。 ③ICTを積極的に活用し、協働的な学習を取り入れるおとにより、主体的・対話的で深い学びの実現に近づけることができた。また、悩みや相談事に関するアンケートでは、過去3年間で一番高い値となり、95.7%となった。	A	・教科や、教科外の授業をお互いに見合う等、教職員同士でも学び合い、指導力、授業力の向上を目指していく。また、ICTの活用に関しても、積極的に取り入れた授業の展開となるように工夫していく。また、4月よりスクールダッシュボードの活用による、学習面、生活面における指導による授業改善や情報共有による組織的な支援の充実を目指す。
		・一年間学校の様子や行事等の取組をみていて、とてもいい学校であると感じている。若い先生も多く、活気のある学校である。					

